

韓国で開催された第1回自然環境解説士全国大会に招待されて

井上博夫（国営讃岐まんのう公園インタープリター1期生）

キーワード：韓国国立公園、エコツーリズム、インタープリター、環境教育教材

1. はじめに

2023年8月28日、友人である韓国 Sharing Nature Association 代表の Sang-Ock Chang 氏から韓国へ招待する候補に推挙したとの連絡がある。Chang 氏とは、20年来の友人で、韓国の幼稚園園長等を引き連れて日本に研修に来た時も大阪で講師を務めたりする仲である。私の経歴や環境教育、自然教育に関する資格やESD活動、地球温暖化防止活動などがわかる資料を送れとのこと。唐突な話で、ホントかなと半信半疑で聞き直した。「どういう趣旨で？」Face Bookで、環境カウンセラーやIPCCレポートコミュニケーター、省エネコンシェルジュなどの温暖化防止・省エネ活動、公園でのインタープリテーション活動、学校教育活動、クラフト、絵画など多岐にわたる活動を見てきて、こういう人は、韓国にはいないとのこと、以前から招待の機会をうかがっていたという。今回うまくいけば、韓国の環境省・生態観光協会（エコツーリズム協会）が主催する第1回自然環境解説士（インタープリター）全国大会に招待されるという趣旨であった。渡航費用等は、すべて韓国持ちだと。

8月30日、送った資料をChang氏が翻訳し、主催者に送ったと連絡がある。招待が決まったら次のテーマで講演をお願いしたいという。

- ・テーマ：日本におけるインタープリテーションの歴史、関連する政策・団体・機関など。インタープリターを養成している団体や資格制度。インタープリターを養成した後の活用方法や状況、ビジョンなど。

- ・講演時間：通訳、質問等を入れて60分。時間があれば、アクティビティ120分。パワーポイントデータが必要。

- ・日時：11月30日10時～17時

9月19日、韓国への招待が決まったと連絡があり、今後の打ち合わせは、Zoomで日程を調整して行くことになる。ここで初めて日本から招待されるのは、私1人であることがわかり、驚いた。パスポートなど渡航の準備を依頼される。渡航期間は、11月28日～12月1日までの4日間。Chang氏とソウルで3連泊。旅費の領収書で清算するという。さて、ここから渡航の準備が大変であった。海外は、9回目であるが、1人で行ったことはない。韓国は、ワールドカップ以来である。パスポートの申請、航空券の予約などなど。Zoomは、2人で打ち合わせするのにとても便利なツールだと思った。5回行った。講演する内容やデータ等の翻訳、確認、要望、修正、補正を繰り返し、話す時のタイミングは、韓国に行ってから対面で行うことにした。アクティビティは、時間がとれないとのこと。ということで、自身初の海外講演旅行が始まった。

2. 大会までの過ごし方

11月28日高松空港から11時45分発、仁川空港13時45分着。エアーソウル就航記念キャンペーン中で、車のパーキング代は、無料でした。高松から東京へ行くのと時間的には変わらない。仁川空港到着ゲートでChang氏と待ち合わせでしたが、来ていない。携帯

で連絡をと思ったが、つながらない。韓国では、場所ごとにWi-Fiにアクセスしなければならないことがわかる。係員や案内所は、英語は、わかるが日本語は通じない。たまたま、日本語が話せる方がいるそうだが…。それまでは、トムハンクス状態（笑）。何とかおぼつかない英語で教えてもらって、携帯がつながると高速道路の事故渋滞にはまっているの、かなり遅れるという。結果、15時30分にChang氏と再会。17時過ぎに明洞のホテルに到着。韓国の冬は、乾燥しているの、寒くはない。冷たい感じ。

部屋は、ツインだが、暖房が効かない。故障みたい。暖房器具を持ち込まれる。食事はついていないので、外に出る。ゆでた豚肉を野菜で包んで食べるウォンハルモニポッサムをいただく。韓国では、全てスマホ決済なので、現金は持ち歩かないという。この日は、疲れていたけれど、夜景スポットであるソウルタワーに登った。展望台の標高は500m。きれいでした。その後、ホテルに戻り、講演手順を確認した。



図1 ソウルタワー

11月29日、早朝にホテル近くで韓国海苔巻きとスープで朝食。その後、近くのゴシック建築様式の明洞聖堂へステンドグラスを見に行く。カトリック教会ですが、静かで厳かな祈りの場所でした。この日の予定は、国立中央博物館と元大統領府青瓦台（チョワンデ）を案内してくれるという。移動はバスと地下鉄。すべてスマホ決済。Wi-Fiもすべて違う。Chang氏でも現金を使うことがないから切符の買い方を忘れるという。わかったことは、算用数字の表記がないことだ。すべてハングル。ただ、切符は、デポジットで、到着駅で回収BOXに入れれば、いくらか戻ってくる。この仕組みは、見習いたい。改札は、全て無人なので注意が必要。国立中央博物館は、以前、増田さんご夫妻も案内したという。規模は、日本科学博物館の1/5ぐらいかな。昼食は、土俗村（トソクチョン）のサムゲタン。以前も食べたことがある有名店。ここで滞在中、唯一のビールをいただく。午後は、元大統領府へ。近くにサランチェや景福宮があり、城壁が続く長い道の先、高台に位置する。警備が厳重で30mごとに

警備員が立つ。大統領府に入ると飲み物は、バック等へ収納するように促される。歴代大統領の肖像画など美術品がたくさん展示されている。裏にある邸宅を見学する頃には、雪がちらつきました。この日は、歩き疲れて夕食は、有名なうどん店へ。まんのう公園では、讃岐うどん体験コーナーでうどんのルーツなどを話しているの、是非にとお願いしていたお店です。韓国式手打ちうどんカルグクスや餃子をいただきました。日本にこれが伝わり、塩を入れてコシを出したのが日本のうどん。ホテルに帰り、明日の大会の最終チェック。韓国では、ネイチャーゲーム指導員資格は、国家資格になっているという。Chang氏は、韓国の代表を務めている。

3. 第1回自然環境解説士全国大会

当日は、快晴。朝食は、近くのベーカリーで、コーヒーとパン。韓国は、パンもおいしい。地下鉄を3つほど乗り換えて会場へ。ソウルの南東部、セテックアカデミーコンベンションホール。川の傍にあり、高さ555mのワールドタワーが望める場所に位置する。到着すると大会参加者からChang氏にあちこちから声がかかる。韓国の国立公園職員の6〜7割が教え子だという。VIP室に通されて、韓国環境省自然公園課事務官や国立公園公団各部長、生態観光協会会長・副会長、教材審査員大学教授等に紹介される。基調講演を行う崔教授(国連生物多様性条約共同議長、IPCC事務総長等を歴任)は、まだ到着されていない。大会の冊子、記念品、名札を渡される。10時から開会式。国旗掲揚、生態観光協会会長の挨拶から始まり、基調講演は崔教授。コロナのパンデミックや地球温暖化などに警鐘を鳴らすとともに、持続可能な社会に向けて何が必要なのかを90分にわたって熱演。韓国ではとても有名でファンも多いそうだ。午前中は、ここで終了。

立公園があり、職員が常駐している。事務所は、36ヶ所。今回は、各公園事務所やそこで活動している環境団体が制作した環境教育教材のコンテストを兼ねており、当日、1位〜3位までが発表される。Chang氏から勧められて教材を展示しているブースを回った。障碍者が自然とふれあうための教材や環境省ということもあって脱炭素系の教材が多く出展されていた。どれも完成度が高く、売れそうなものが多いと感じた。Chang氏によると韓国では、いいなと思ったものは、瞬く間に広がるという。コンテストのことを前もって聞いていたら、私も出展していたかも(笑)。1位賞金は100万ウォン、2位75万ウォン、3位50万ウォン。驚きでした。だから精度が高いのかと。コンテストの審査発表が楽しみである。



図3 各団体の環境教育教材の展示作品

2023년 전국 자연환경해설사 대회

- 일시** 2023. 11. 30. (목) 10:00-17:00
- 장소** 세텍 (SETEC) sba 아카데미 (서울 강남구 남부순원로 3104)
- 주최** 환경부
- 주관** 자연환경해설사 운영사무국 (한국생태관광협회)
- 참가비** 1인 25,000원 (참가자 전원 필수 납부)
농협은행 301-0314-0051-11 (예금주: (사)한국생태관광협회)
- 참가방법** 한국생태관광협회 홈페이지: www.ecotourism.or.kr
2023년 전국 자연환경해설사 대회 참가신청서 작성 후
메일 접수 (office@ecotourism.or.kr)
- 참가신청: 2023. 10. 10. (화) ~ 11. 03. (금) 23:59 까지
- 주요내용** 강연 | 기후변화와 자연환경해설사 (최재천 교수)
자연환경해설사의 현자와 미래 (이노우에)
소통 | 자연환경해설사 우리의 이야기
참여 | 자연환경 현장해설 프로그램
전시 | 교육재 전시 및 공모전

[자연환경해설사 체험 교육재 전시 및 공모전 참가자 모집]
- 참가신청: 교육재 공모전 참가신청서와 교육재 소개양식 다운로드 및 작성 후
메일 접수 (office@ecotourism.or.kr)
- 신청: 2023. 10. 23. (금) ~ 11. 10. (금) 23:59 까지

문의) 한국생태관광협회
www.ecotourism.or.kr | 02-723-9677 | 070-4255-6928

환경부 한국생태관광협회

図2 大会ポスターと冊子、プログラム、参加証

午後からは、各地のインタープリターの野外体験(河川敷公園)や活動報告、国立公園職員が制作した環境教育教材入賞作品(17団体)の展示・審査が同時進行で行われた。韓国では、概ね山毎に国



図4 野外体験活動

私は、15時30分から登壇。海外事例として「日本の自然環境解説士の現在と未来」と題し、Chang氏の通訳で、日本の動向をお伝えした。その概要は次の通り。

まず、「ヨロブン、アニョハセヨ、井上博夫、インニダ」から始めて、世界や日本におけるインタープリテーションの歴史を紐解き、日本の国立公園や国定公園、国営公園をご紹介します。私の所属する国営讃岐まんのう公園も併せて紹介した。まんのう公園には、ドックランがあるが、韓国にはないので非常に興味深いとのことだ。それか

ら要望のあった森林浴の観光スポットやその効果。日本におけるインタープリテーション活動やインタープリター養成機関・団体を紹介し、日本におけるインタープリテーションは、自然解説だけでなく多岐にわたる分野で活用されていること、環境教育手法の1つであることなどを伝えた。最新のインタープリテーション活動は、雲仙インタープリター養成講座で、日本初の全体計画を発表したことを付け加えた。ただ、日本では、インタープリターは、まだまだ認知されておらず、自然系の就職には有利であるが、米国のNPSのレンジャーのようなステイタスには至っていないこともお伝えした。特にインタープリターの給与待遇には、大変関心を持たれていると聞いていたので、日本の有名な協会やリゾート会社、地方のツーリストや野外施設などのそれもお伝えした。日本では、理科離れが進んでおり、科学技術コミュニケーターなどは、大卒経験2年で月額30万円前後の高額待遇も出てきていることも。次に、日本で発刊されたインタープリテーションの参考文献、山田菜緒子訳「インタープリテーション」、日本における学者や実践者の「インタープリタートレーニング」、米国同本改訂版山本草、山本幹彦訳「インタープリターズガイドブック」をご紹介。山田さんのインタープリテーションは、近々韓国で翻訳本が発刊されると聞く。この3冊は、Chang氏にお渡しした。時間があれば、まんのう公園で何を伝えているのかなどをお伝えする予定でしたが、時間の都合で割愛。最後は、フリーマン・チルデンのインタープリテーションの3つの定義で締めくくった。「カムサハムニダ」。通訳もうまくいきChang氏と握手を交わした。



図5 講演：日本におけるインタープリテーション活動の動向

最後は、いよいよ出展教材の表彰式。参加者全員がホールに集まり、3位：韓国生態観光協会賞から発表。3団体。2位：国立公園公団理事長賞2団体。1位：環境省環境部長官賞1団体。3位から順に登壇し、表彰状や記念品の授与。ここで、ハプニング。なんと1位の団体が帰ってしまったということで、環境省の職員が代りに受け取る。一同、大笑い。閉会式は、生態観光協会副会長から閉会と感謝の挨拶で終了。閉会后、一堂に介して記念写真を撮り、再会を約束して帰路につく。大会主催者から夕食を誘われて、Chang氏と同行。コース料理をいただき歓談。明日の早朝に空港に行かなければならないので、ホテルまで副会長に送っていただいた。また、韓国で有名なNGOの拠点に立ち寄り、お土産もいただき、感謝、感

謝の1日が終わった。

翌日は、午前4時半のバスでChang氏と別れて空港へ向かい、帰路に就いた。10時半高松空港着。これが今回、韓国訪問4日間の講演旅行の報告である。Chang氏には、感謝しかない。この大会は、継続するようだ。また、韓国から日本、四国へ研修に伺うかもしれないということで、帰国後、環境省四国事務所、国土交通省四国整備局香川河川国道事務所に報告に上がり、来日の際は、支援をお願いした。韓国の同胞は、本年、ヨセミテ国立公園やジョセフ・コーネル氏に会いに米国へ研修に行った。次年度は、瀬戸内芸術祭開催の年なので、来日を期待して締めの言葉とする。



図6 環境教育教材の表彰式



図7 参加者全員で記念写真